

首都から未来を変える

GovTech東京経営管理本部長 辻正隆

— GovTech（ガブ）1年でした。

テック）東京（GTT）の設立から1年が経ちました。

東京全体のDXの底上げを目指して立ち上げたので、パートナーとなる都庁はもちろん、区市町村に信頼をいただくことがポイントでした。設立前にデジタルサービス局の職員と区市町村を足踏し、62すべての自治体から団体の趣旨や取り組みに賛同をいただいていたスタートできたことは大きいです。信頼を得られるよう丁寧実績を積み重ねることを意識しながら進めてきた

——中期経営計画を発表しました。

今後、我々がどこを目指していくか、登るべき山を分かちやすく示しました。区市町村をはじめ、様々なステークホルダーの皆さんの理解と共感を得ながら、ゴールを目指したいと思っています。GTTの中でも、経営と現場のベクトルをそろえていけるよう、今後のアクションの解像度を上げているところです。

——GTTには民間や都庁の出身者など、文化の違いがあって難しいのでは。

でも、そこが楽しいところでもあります。それぞれバックグラウンドは全然違う一方で、良い公共サービスに変えていこうという思いは共通しています。そのアプローチの仕方は様々で、民間の時と同様にテキパキ仕事を進める人と、私を含め公務員のように慎重な人とのスピード感のギャストは大きな部分もあり

ますが、うまくお互いが肌で感じながら試行錯誤を重ねています。

——組織作りの工夫は。

通常の業務以外でのコミュニケーションも積極的に取って関係を深めています。うれしいことに職員がどんどん増えているので、経営と現場の認識をどう合わせるかもポイントです。月に一度、全職員向けに経営メンバーが自分の言葉で職員に語りコミュニケーションを取る場を作ったりしながら、組織全体で同じ方

向に向かうための工夫をしています。結局は全て人が介在しているので、コミュニケーションがDXを進めるポイントの一つだと思います。

——中期経営計画では持続可能な経営基盤の確立も打ち出しました。

GTTは東京都が設立した団体で、現状、運営原資はほぼ都から出していたでいます。一方でサービスは都内区市町村をはじめ、今後は公共系団体などにも提供していくので、都以外にもサービ

スに対して一定の負担をいただくことは経営基盤確立に不可欠で、計画期間の3年間でビジネスモデルを作っていきたいと思っています。

——計画は結構踏み込んだ印象ですね。

そうですね。2040年の姿として掲げた「首都から未来を変える」というビジョンは、東京のただけではなく、首都である東京から全国への貢献を描いています。全国の自治体もDXに当たって同じような悩みを抱えているので、我々にできることがあるのではないかとというのが計画に盛り込んだエッセンスです。計画期間の3年間ではこうしたビジョンを実現できる体力や基盤を作っていくことも重要になります。

6 GovTech東京 2年目の挑戦



つじ・まさたか＝1974年生まれ。98年都庁に入庁、総務局震災対策担当課長、同監理団体指導課長やデジタルサービス局調整担当部長などを歴任。趣味を聞くと、「コロナ前は結構ゴルフに行ったりしていたんですが、最近はもっぱら素振りだけしています」。代わりに気分転換となっているのが銭湯。「スーパー銭湯が好きで、近場のショッピングモールと共に家族サービスもかねて回っています」